

1. 職名・氏名 准教授 松岡 孝恭
2. 学位 博士 (応用経済学)、専門分野 マクロ経済学・統計学、  
授与機関 大阪大学、授与年月 2010年3月23日

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 基礎ゼミ (2単位) 2年次
②内容・ねらい [内容] オープンソースソフトウェアの R と Python を使って、データを分析していくうえで必要になる様々な技法を実習形式で学ぶ。 [ねらい] 以下の能力の養成：(1) R と Python の基本的な使い方を知り、自分でプログラムが組めるようになる、(2) Web 上の統計データからデータベースを作成できるようになる、(3) データ分析の内容を再現可能な形でレポートできるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生にプログラムの書き方を教えるため、コマンドの構文と意味を説明したカードを作成し、配布した。毎回の授業で達成すべき目標課題を示し、そこに到達するためにどのようなコマンドの組合せが必要になるのか考えさせ、またプログラムとして実装する作業を行わせた。また、コマンドを単に書き写すのではなく、プログラム全体を見渡して設計する視点 (UML による設計) を強調した。
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 外書講読 I (2単位) 2年次
②内容・ねらい [内容] 総務省統計局が編集している <b>Statistical Handbook of Japan 2016</b> を読む。内容に関する議論を通して統計データの図表を読み解くと同時に、統計データを表現するための英語を学ぶ。さらに身に付けた英語表現を使って統計データを英語でプレゼンテーションする。 [ねらい] 以下の能力の養成：(1) ハンドブックに収められた幅広いトピックに関するデータを観て日本経済のすがたをよく知る、(2) ハンドブックから経済データの示し方を学び、統計データを使って議論を展開する能力を養う、(3) 統計データに関する英語表現に慣れ親しみ、身に付けた表現を使って英語でプレゼンテーションをできるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 統計データを表すための英語表現が日常的によく使われていることを示すため、英字新聞から記事をコピーして学生に配布した。英語を書くためには表現を覚え、さらにそれを自分の言いたい内容に合わせて変換していくノウハウが必要であることを伝えた。学生には教科書にある図表を英語で説明する課題を与えた。課題に取り組む目的として、英語を書く練習を通して論証の型を身につけられることや各種民間検定試験のライティングの問題をクリアできる能力を身につけられることを伝えた。
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 演習 II (4単位) 4年次

<p>②内容・ねらい</p> <p>[内容] 演習 I で取り組んだ実証分析の結果を踏まえて、より発展的な分析を行う。また、演習 I で学んだ調査・研究の方法と論文執筆に関するノウハウを生かして卒業論文に取り組む。実証分析の手法と能動的に読み書きする能力を身につけ、現実のデータから意味のある結果を導くことを目標とする。</p> <p>[ねらい] 以下の能力の養成：(1) 基礎的な計量モデルを理解し、(2) 自分の問いを軸に文献を読み、(3) 分析結果を構造的にしっかりとした論文にまとめ、(4) プレゼンで分かりやすく伝えられるようになる。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>文書作成ソフトで書かれた論文のアウトラインをスライド資料に変換するプログラムを作成し、今年度から学生に使わせ始めた。これによりゼミ生はスライド資料と論文のアウトライン作成を同時並行的に行えるようになる。このプログラムの配布により今年度のゼミでは昨年度と比較してゼミ生によるプレゼンテーションの機会が格段に増えた。</p>
<p>①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等</p> <p>統計学 (2 単位) 1 年次</p>
<p>②内容・ねらい</p> <p>[内容] 統計学と確率論の基礎を学び、推定や検定といった統計的推測の原理を習得する。</p> <p>[ねらい] 以下の能力の養成：(1) 確率の考え方を理解して基本的な確率分布について確率の計算ができる、(2) 点推定、区間推定、仮説検定の原理を理解できる。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>機械学習やビッグデータなど近年のデータサイエンスの潮流を踏まえながら、統計学を学ぶ目的を伝えるようにした。離散型と連続型確率分布を導入する際、鉛筆 (面が 6 つ) や円筒 (面の数は数えられない) を転がす実験を行った。オセロの駒を投げる実演を行い、理論的確率と経験的確率の違いを明確に示した。</p>
<p>①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等</p> <p>計量経済学 (2 単位) 2 年次</p>
<p>②内容・ねらい</p> <p>[内容] 2 つの変数の因果関係を分析する回帰モデルに関する推定と検定の手法を習得する。</p> <p>[ねらい] 以下の能力の養成：(1) 回帰分析の前提となる統計的な考え方が理解できる、(2) モデルから出てきた結論を理解して結果について解釈できるようになる。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>回帰分析が使って妥当な分析ができるためには、回帰モデルに置かれた仮定についてよく理解する必要がある。講義では経済データを使って因果関係の推測をする難しさを伝え、もし分析ができるとしたらどういった条件の下で可能かを示しながら、安易な回帰分析の適用に注意するように伝えた。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>①担当科目名 (単位数) 開講学校名</p>
<p>②内容・ねらい (自由記述)</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)</p>
<p>④本学における業務との関連性 (自由記述)</p>
<p>(3)その他の教育活動</p>
<p>内容</p>

#### 4. 研究業績

<b>(1)研究業績の公表</b>
①論文 松岡孝恭「平成30年2月の大雪が地域の鉱工業生産に与えた影響」『福井県立大学経済経営研究』、第39号、1-27頁、2018年10月。
②著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)
③学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))
④その他の公表実績
<b>(2)学会活動等</b>
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など
学会・分科会の開催運営
<b>(3)研究会活動等</b>
① その他の研究活動参加 本学経済学部の研究会における報告(平成30年2月の大雪が地域の鉱工業生産に与えた影響、2019年4月24日)
② その活動による成果
<b>(4)外部資金・競争的資金獲得実績</b>
<b>(5)特許出願</b>

#### 5. 地域・社会貢献

<b>(1)学外団体</b>
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 福井県町村会との連携事業「町村職員特別講座~これからの町村自治を考えるゼミ~」講師担当(2019年8月6日、10月10日、2020年2月13日(予定)、3月24日(予定)) 大阪大学福井県同窓会第7回定例会における報告(平成30年2月の大雪が地域の鉱工業生産に与えた影響、2018年12月6日)
⑥ その他

(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講
② 社会人・高校生向けの講座
③ その他 FBC ラジオ「ようこそ県立大学へ」出演（「これからの町村自治を考えるゼミ」、2019年6月29日、30日放送） 福井新聞（「町職員を対象に自治考えるゼミ 県町村会と県立大」2019年8月20日） FBC ラジオ「ようこそ県立大学へ」出演（2月の大雪が県内製造業に与えた影響について、2018年12月15日、16日放送） 福井新聞（2018年10月31日）、毎日新聞（2018年12月予定）への情報提供（「平成30年2月の大雪が地域の鉱工業生産に与えた影響」の研究成果に関して）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

## 6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
[2019年度] 福井県立大学論集編集委員 情報作業部会委員 大学案内制作学部ワーキンググループ
[2018年度] オープンキャンパス学部企画運営委員 新入生オリエンテーションツアー企画運営会議 情報作業部会委員 大学案内制作学部ワーキンググループ
[2017年度] オープンキャンパス学部企画運営委員 学生相談担当教員 職場委員 情報作業部会委員
(3)学内行事への参加
入試説明会（福井県立武生東高等学校、2019年7月26日） 新入生オリエンテーション合宿（2018年4月7日） 「学部・学科探究講座」（福井県立武生高等学校、2018年7月12日） 入試説明会（福井県立勝山高等学校、2018年7月23日） オープンキャンパス2018（2018年8月5日） 教育研究フォーラム「県大の英語教育を考える」（2018年12月12日） 新入生オリエンテーション合宿（2017年4月8日、9日） 入試説明会（福井県立大野高等学校、2017年7月7日） オープンキャンパス2017（2017年8月6日） 開放講義（福井県立敦賀高等学校、2017年10月31日）
(4)その他、自発的活動など
大学案内2021「松岡ゼミ」の記事作成。